

サミュエル・フラー自伝

～わたしはいかに書き、闘い、映画をつくってきたか～

サミュエル・フラー、クリスタ・ラング・フラー、
ジェローム・ヘンリー・ルーズ 著 遠山純生 訳

12月20日発売

ジャン＝リュック・ゴダール、ヴィム・ヴェンダース、ジム・ジャームッシュ、アキ・カウリスマキなど、世界中の多くの監督たちに慕われたサミュエル・フラー。

「アクション映画」「犯罪映画」「戦争映画」「西部劇」といったジャンルのルールを踏襲しつつ、しかし「サミュエル・フラー」としか言い得ない確固たる独自のジャンルを作り上げた彼の、背景と源はどこにあったのか？

犯罪事件記者でもあった彼の歴史は、そのままアメリカの歴史の光と闇とを浮かび上がらせる。ハリウッドの背景に広がるアメリカという夢の王国の持つ深い陰影からこぼれ出た物語が1冊の書物となったのだ。これはひとりの映画監督の自伝であるとともに、20世紀という映画の時代の物語でもある。

史上もっとも過激なアクション映画と、もっとも前衛的な西部劇と、
もっとも偉大な戦争映画を撮ったサミュエル・フラー。

悔しいが、この男こそ映画そのものだと認めよう。

……黒沢清（映画監督）

<著者紹介>

■サミュエル・フラー Samuel FULLER

1912年8月12日、マサチューセッツ州ウースター生まれ。12歳で新聞社の原稿運び係となり、17歳で事件記者となる。パルプ小説家としても活動を始め、1930年代半ばからは映画の脚本を書き始める。

1949年に『地獄への挑戦』で監督デビュー。代表作に、『鬼軍曹ザック』『東京暗黒街・竹の家』『ショック集団』『最前線物語』『ホワイト・ドッグ』などがある。パルプ小説的物語に、強烈な暴力描写・登場人物の心理探究・社会的不正に対する抗議を織り込んだ独特の低予算娯楽作品を数多く手がけている。批評的に注目されるようになったのは1960年代後半以降のこと。『気狂いピエロ』（ジャン＝リュック・ゴダール）、『ラストムービー』（デニス・ホッパー）、『アメリカの友人』（ヴィム・ヴェンダース）、『1941』（ステイヴン・スピルバーグ）など、俳優としての仕事も多いが、出演作はいずれもフラーを師と仰ぐ欧米の監督たちの作品である。

[製作・編集：株式会社 boid / 発売：株式会社 JRC]

番線印	ご注文	発行：boid	分野
	冊	サミュエル・フラー自伝 私はいかに書き、闘い、映画を作ってきたか サミュエル・フラー、クリスタ・ラング・フラー、 ジェローム・ヘンリー・ルーズ 著 遠山純生 約	芸術
	ご担当 様	A5判 並製 784 ページ 定価：本体 6,000 円＋税 新刊 ISBN 978-4-86538-045-3	出荷条件： 返品条件付 注文扱い

ご注文・お問合せは JRC へ お申し込み FAX 03-3294-2177

JRC 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34 風間ビル 1F

TEL：03-5283-2230 E-mail：info@JRC-book.com

詳細：www.boid-s.com

*全ての取次ぎへの出荷可能です。